

なごやにおけるごみ問題の経緯 及びごみ減量化対策の現状

なごや循環型社会・しみん提案会議
実行委員会

1. なごやにおける「ごみ問題の経緯」

従前

ごみは右肩上がりの増加，ごみ処理は「焼却 埋立」が基本
焼却・埋立施設の継続的な確保が必要

1981年

藤前干潟埋立構想

1990年～

干潟論争が盛んに！

1999年

(1月) 藤前埋立断念

(2月) 非常事態宣言・・・2000年までに20%，20万トンのごみ減量
【トリプル20】

2000年～

ごみ施策の変更と、排出者の取り組み徹底

ごみ施策の変更
(リサイクル施策の拡充)

排出者の取り組みの徹底
(説明・助成等の拡充)

危機感の共有と減量の成果
(トリプル20の達成)

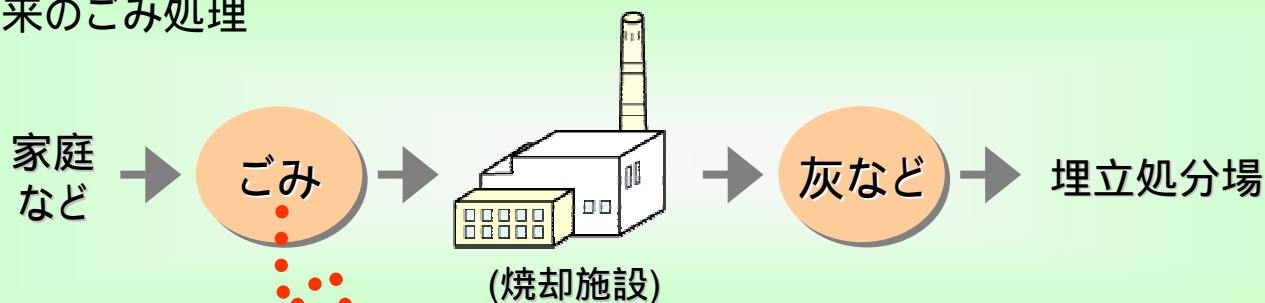
現在

次なる展開の模索！

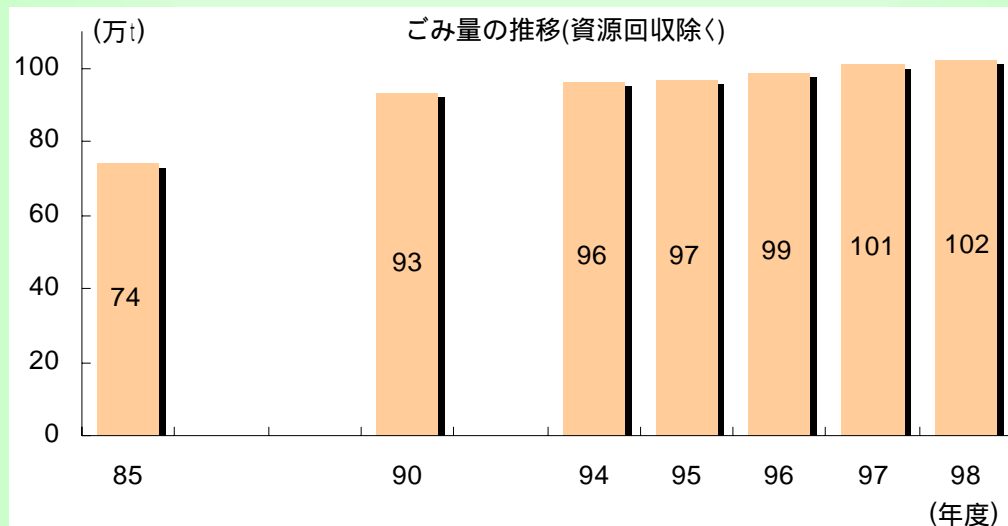
2. なごやでは、何故ごみを減らす必要があったか？

ア. 増え続けるごみ

その1 従来のごみ処理



その2 増え続けるごみ



右肩上がりのごみの増加は、焼却・埋立施設の継続的な確保が求められます。

藤前干潟埋立構想もこのような背景からつくられました。

2. なごやでは、何故ごみを減らす必要があったか？

Ⅰ. 干潟論争と非常事態宣言

その1 干潟論争

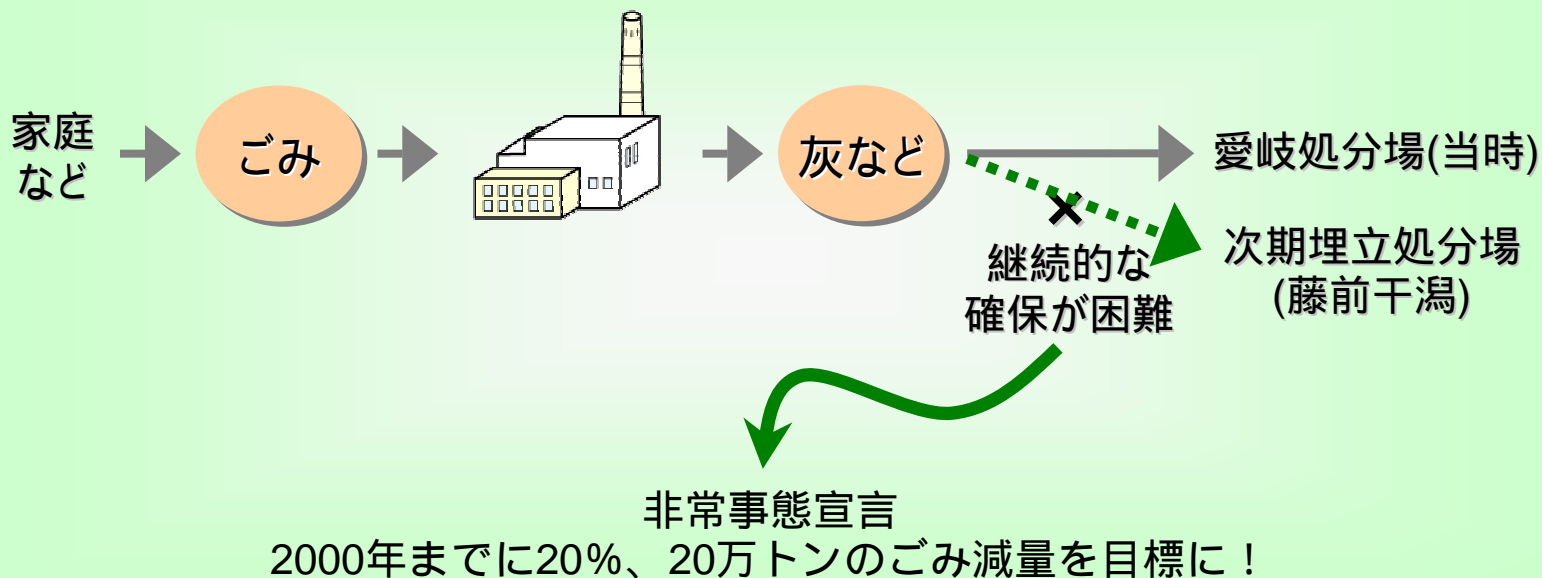
1990年代に入り、藤前干潟の埋立については、激しい論争が起こりました。

市民運動サイド

VS

名古屋市サイド

その2 藤前埋立断念と非常事態宣言



3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

ア. ごみ施策の変更と排出者への支援

名古屋が行ったごみの減量の取り組み

ごみの減量には、大きく

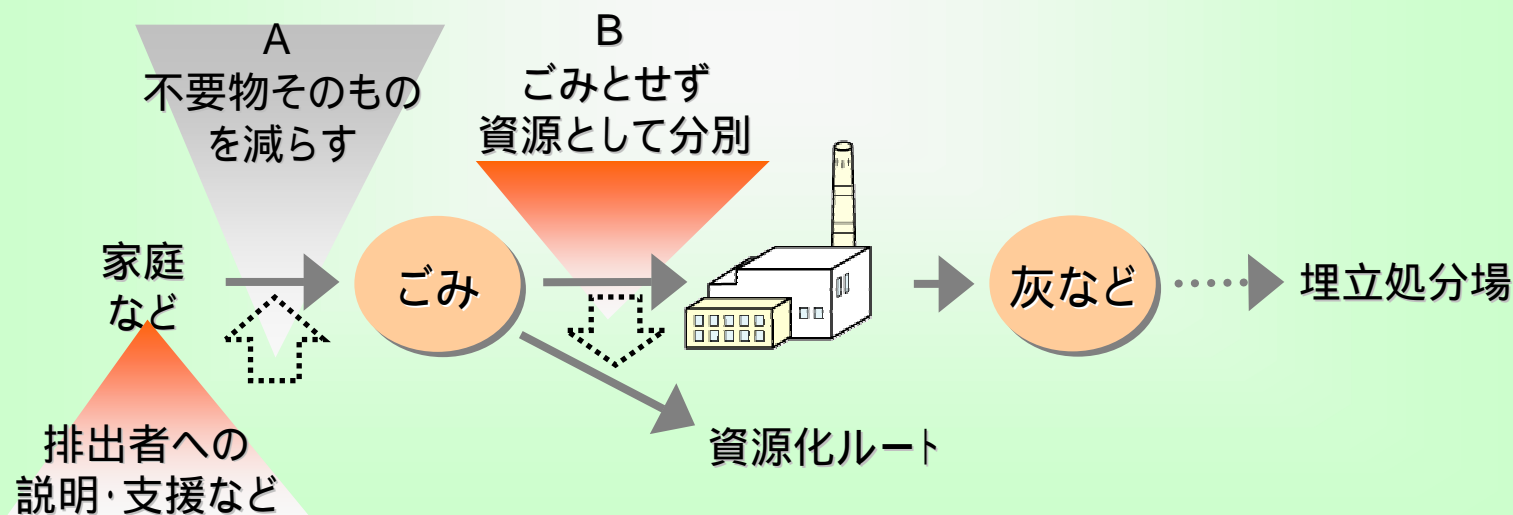
A: 家庭や事業所から出る**不要物そのものの減量**

B: 不要となったものでも**“ごみ”とせず、資源として分別**

の2通りがあります。

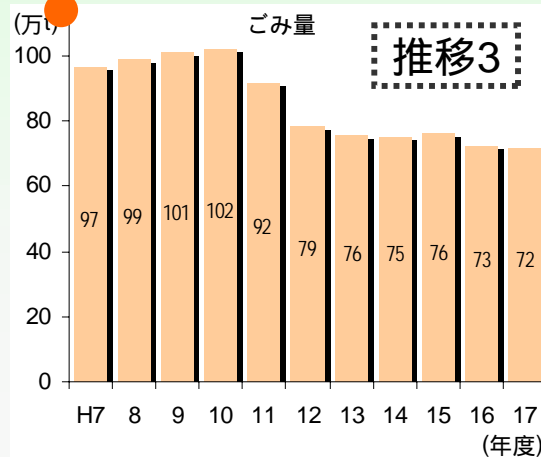
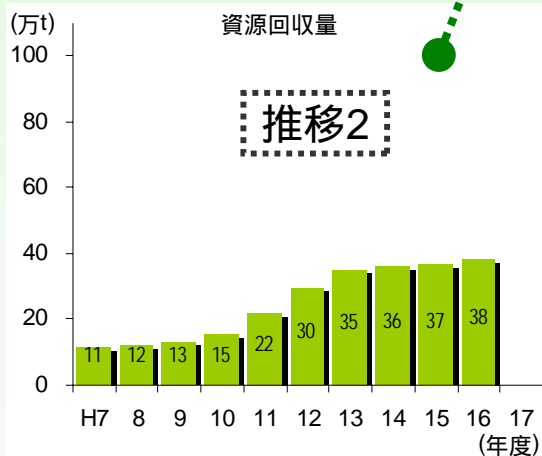
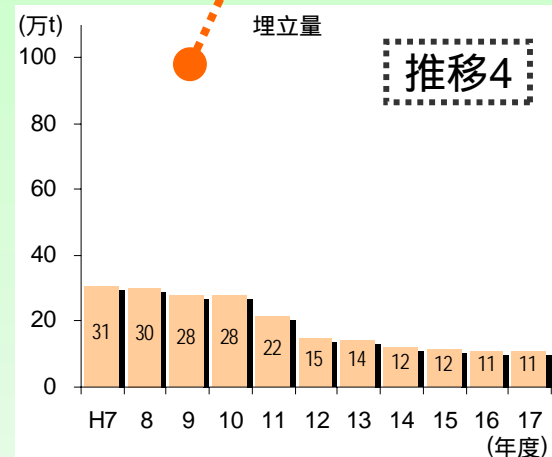
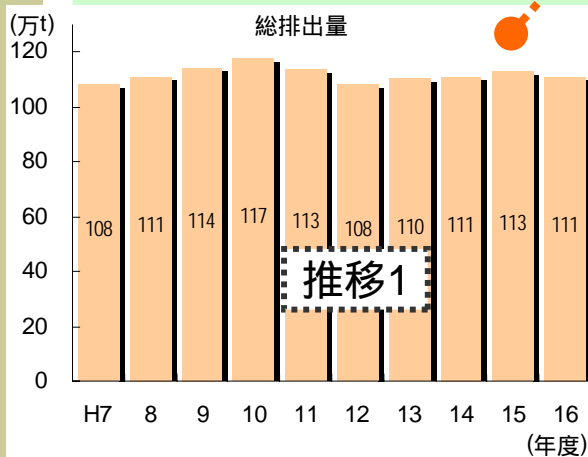
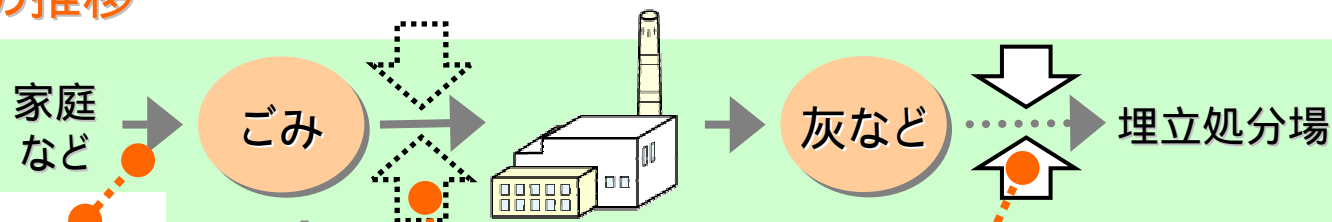
非常事態宣言後、なごやでは、特にBの取り組みを中心に拡充させてきました。

(第2次一般廃棄物処理基本計画)



3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

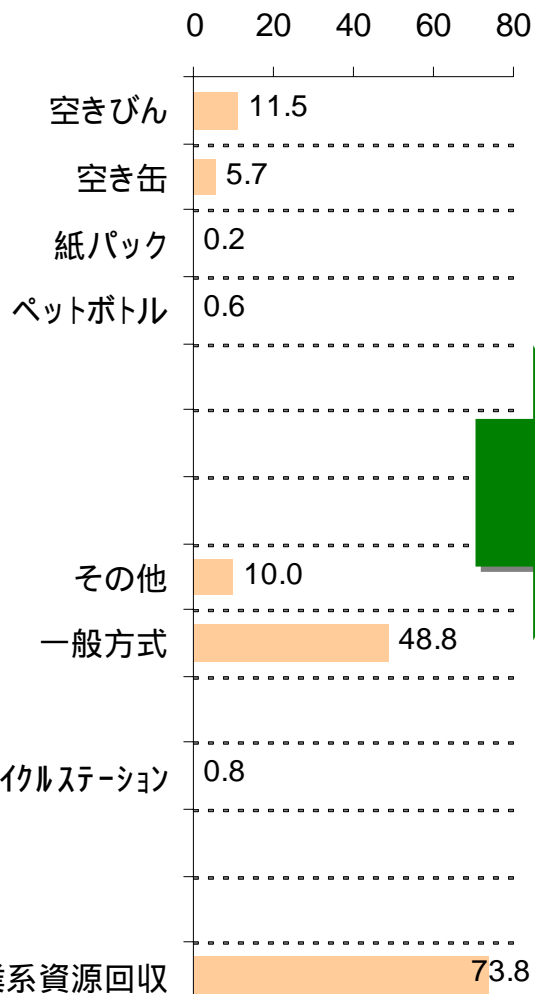
イ. ごみの流れの推移



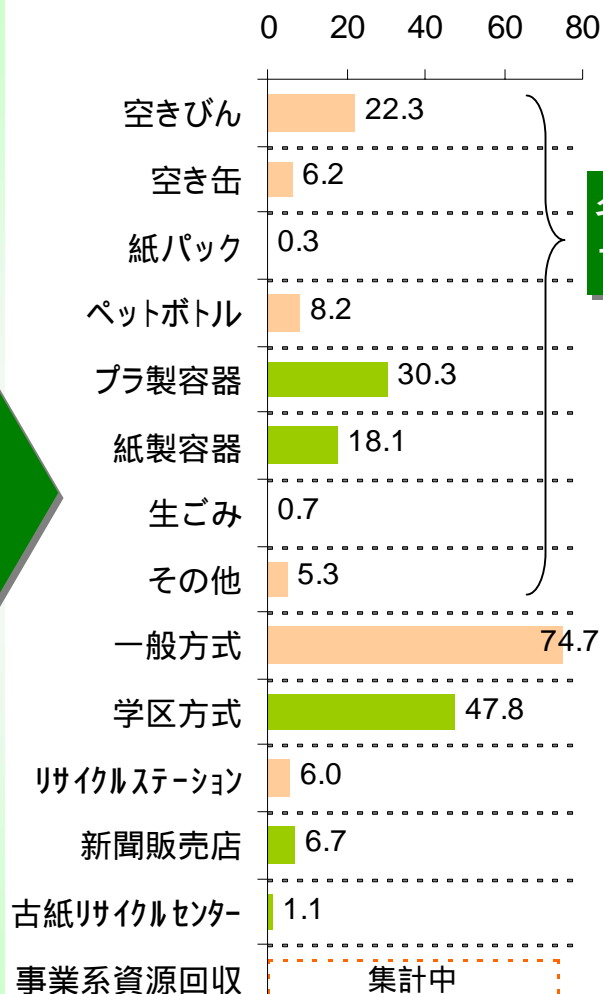
3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

ウ. 資源化量の内訳

平成10年度(非常事態宣言時) (千t)



平成17年度 (千t)



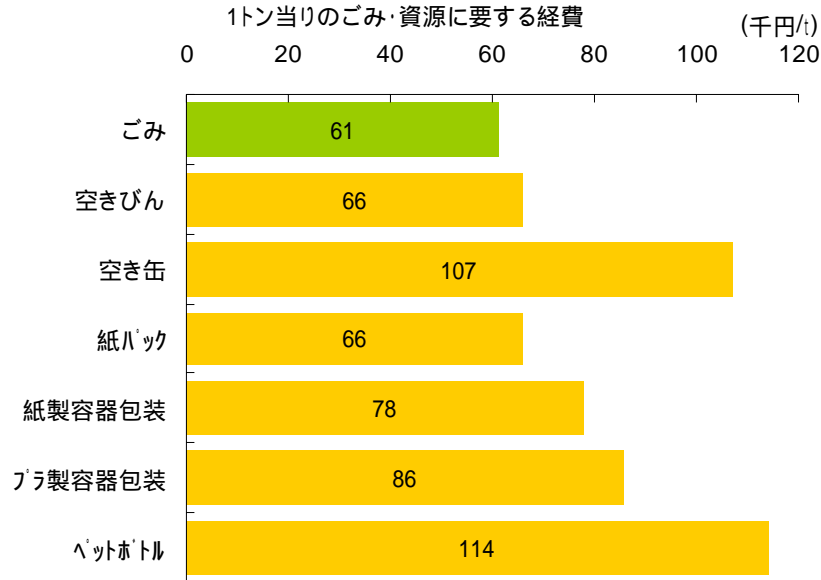
名古屋市が実施する資源化事業

市民・事業者による自主回収

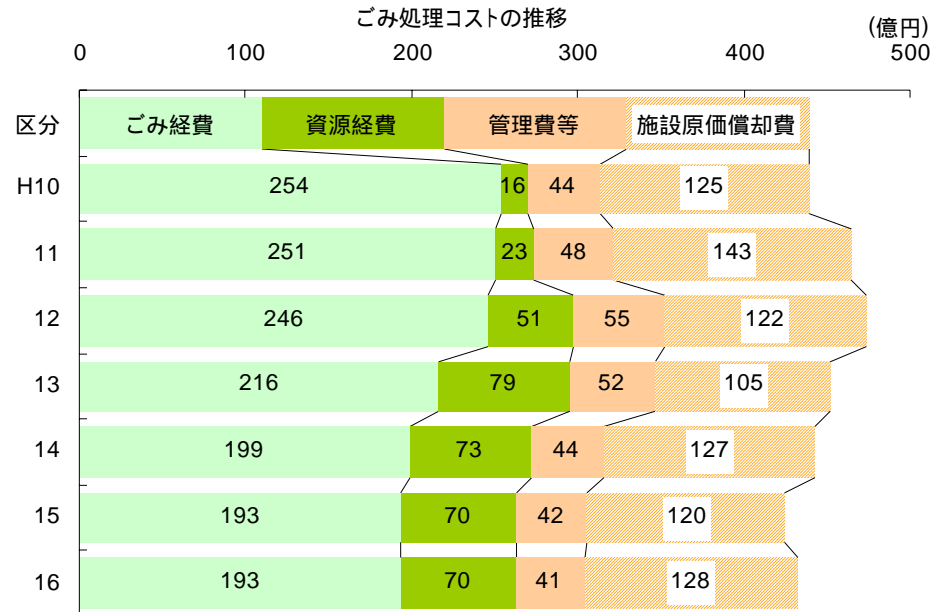
3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

Ⅰ. ごみ処理経費の推移

ごみ・資源の経費



ごみ処理コストの推移



3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

オ. 他都市との比較(平成16年度)

